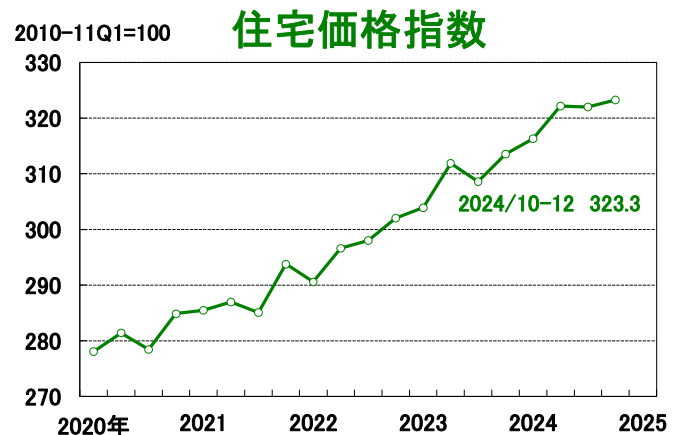
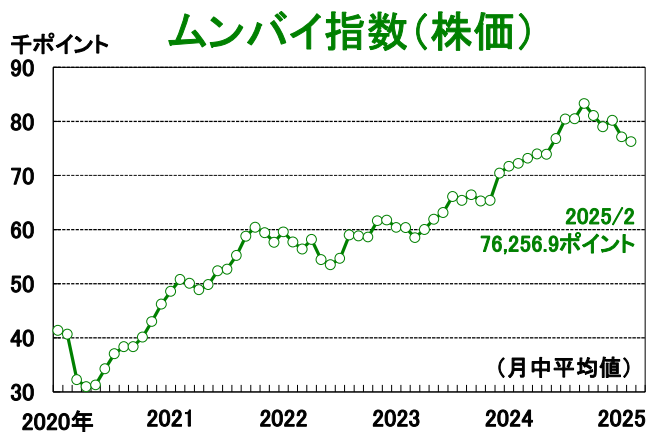
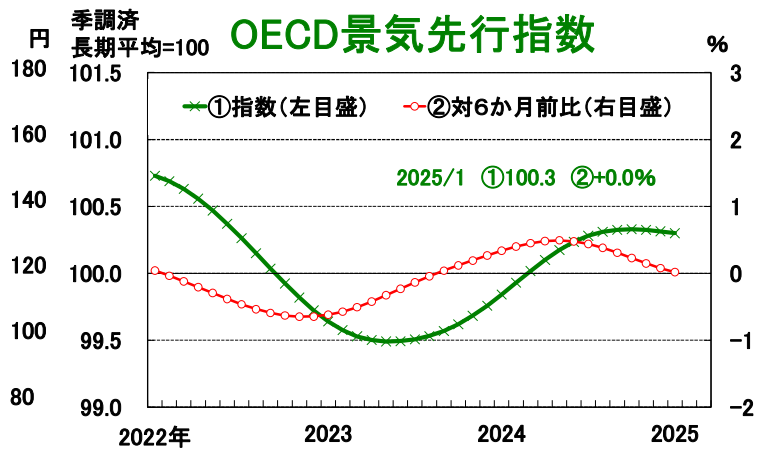
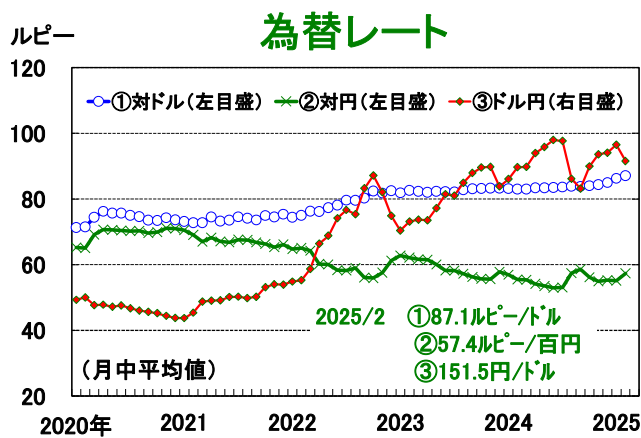
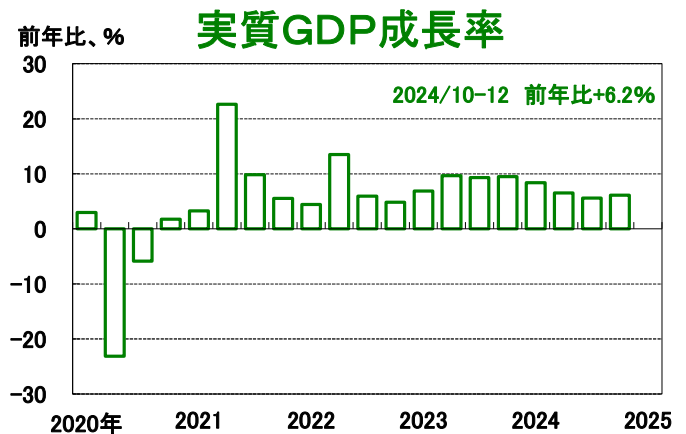
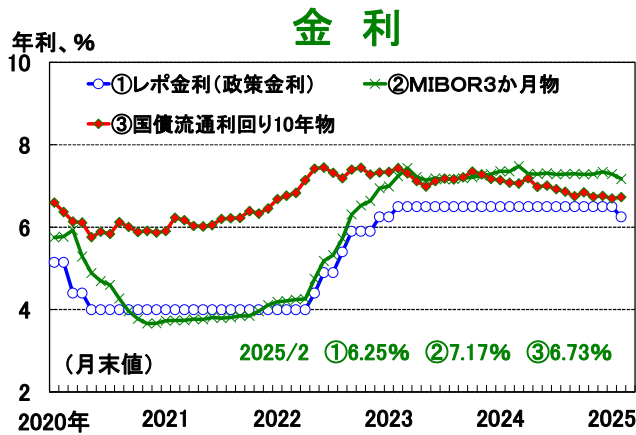
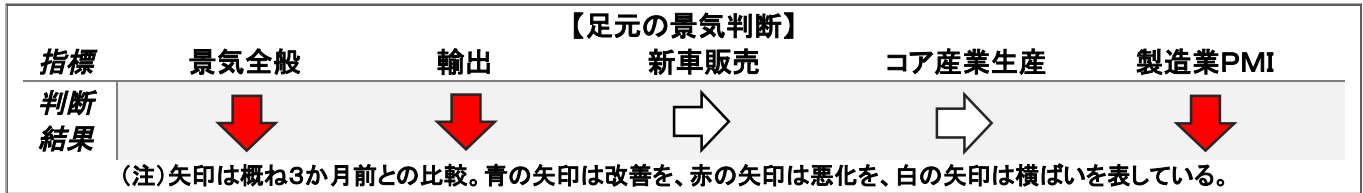


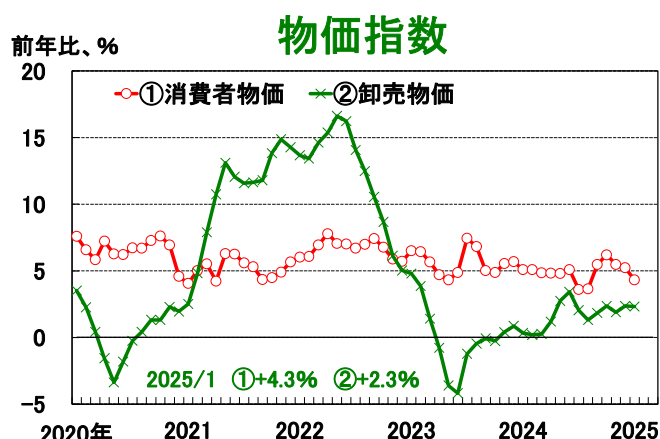
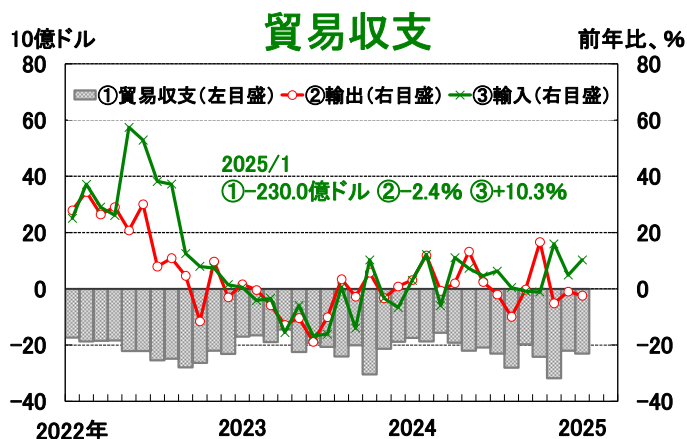
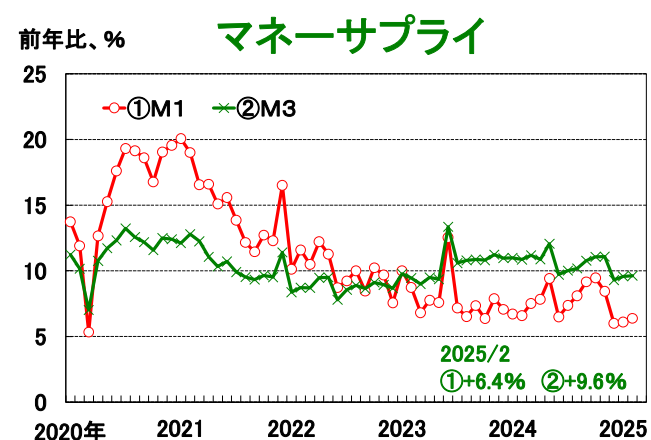
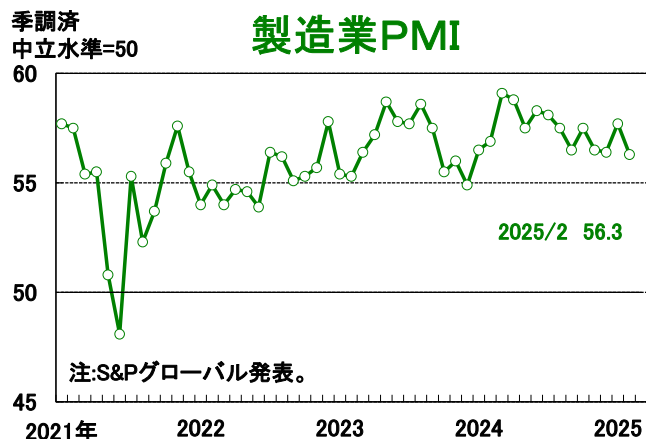
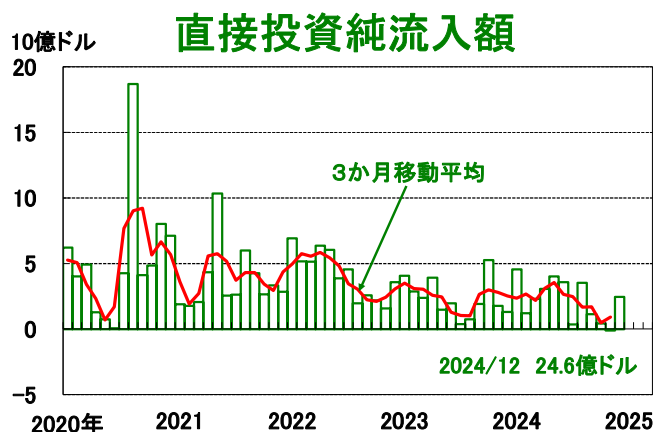
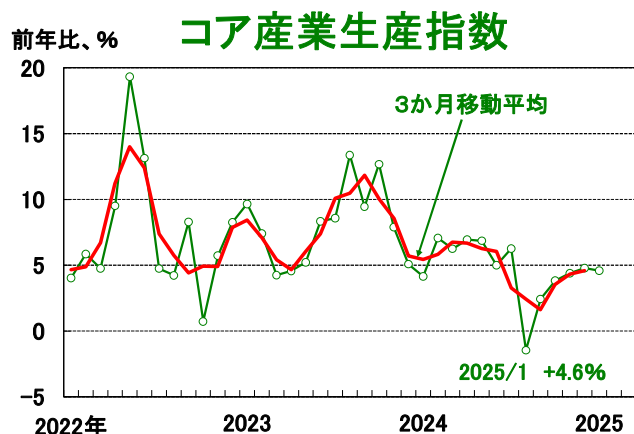
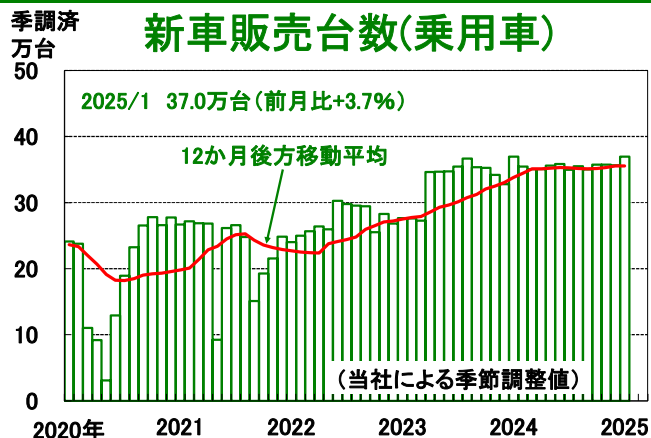
グラフで見るインド経済 2025年3月号(No. 183)

2024年10～12月期のインドの実質GDP(国内総生産)は前年比+6.2%(前期は同+5.6%)と、成長率が4期ぶりに高まった。内訳をみると、個人消費や政府支出などが持ち直した。ただ、直近の月次指標をみると、景気回復の動きが鈍っている様子がうかがえる。2025年1月の新車販売台数(当社試算の季節調整値)が前月比+3.7%と増加したものの、同月の輸出は前年比-2.4%と3か月連続で前年水準を下回った。続く2月の製造業PMIは56.3と前月(57.7)を下回り、景況感は改善の動きが再び鈍くなっていることが示された。



(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。